



# リウマチニュース



H29年1月

## 放射線検査について



### 単純 X 線撮影



いわゆるレントゲン検査というものです。

関節を形態的に捉え、多数の関節が一度で評価できます。**リウマチ以外の疾患の除外、治療開始前の関節の評価、診断が確定している病変に対して進行をチェック**することを目的に検査を行います。

検査部位は、胸部をはじめ、頸椎、肩、肘、手、膝、股関節、足関節、足趾などほとんどの関節について撮影を行います。



### 定期的に胸のレントゲンを撮るのはどうして？



関節リウマチは、関節以外にも様々な臓器に影響が出る全身疾患です。特に**肺病変は、しばしば関節リウマチにともなって起こります**。最初は軽い咳だけが主な症状ですが、感染を合併すると痰を伴ったり、進行すると動悸や息切れをするようになります。また副作用による薬剤性の間質性肺炎が存在すると、リウマチの薬物治療が非常に困難な状況に陥ってしまう場合もあります。こうした事情から、関節リウマチの患者さんでは定期的に胸部レントゲン写真を撮影することがあります。





## 骨密度検査

2種類の放射線を使って、正確に測定します。結果は数値で表され、健常者の平均的なデータとも比較し、骨粗鬆症の診断や経過観察に用いられます。

リウマチによって骨密度が低下する原因の1つは、**関節の炎症部位における骨破壊**です。その変化を把握する為に定期的に検査を行います。また、**関節の痛みや動きの制限**により骨密度が低下すること、**ステロイド薬の使用による骨粗鬆症の進行**の状況を把握するためにも検査を行います。

当院では、主に腰椎と大腿骨を使って測定しています。ただし、股関節を手術されている方は大腿骨での測定はできません。腰椎も手術をされているとその部分を避けて測定しています。大腿骨の測定では内股にして股関節頸部というところを長く見せるように検査します。



## 結果はどうやって見るの？

若い人と  
比較した値

骨密度の若年成人平均値を100%としたときの比較です。この値が低くなると骨粗鬆症が疑われます。

**80%以上** 心配ありません。

**70~79%** 骨密度がやや低下しています。

**70%以下** 精密検査を受ける必要があります。



リウマチセンター 放射線科

